

DISCOVERY

SHIKOKU ZAIMU KYOKU

シコク発見@那賀町

2023, Oct.



全ての人
笑顔になれる、
奇跡の村を創る

企業紹介

KITO
DESIGN
HOLDINGS



KITO DESIGN HOLDINGS 株式会社

■address

(ホールディングス) 徳島県那賀郡那賀町木頭西字森廻り1-2
(未来コンビニ) 徳島県那賀郡那賀町木頭北川いも志屋敷11-1

■Website



ホールディングス▶

<http://kito-dh.jp/>



未来コンビニ▶

<https://mirai-cvs.jp/>

〈未来コンビニ〉
リテール事業部 リテール事業部長

宮脇 貴之



大自然に囲まれた人口約1,000人の小さな村、那賀町木頭(きとう)地区(旧木頭村)「四国のチベット」と呼ばれるこの場所で、地方創生事業に取り組んでいる「KITO DESIGN HOLDINGS株式会社」その事業の一つであり、「世界一美しいコンビニ」をコンセプトに建築された「未来コンビニ」の店舗責任者である宮脇貴之さんに、徳島大学総合科学部の学生と一緒に話を伺いました。

「四国のチベット」那賀町木頭地区(旧木頭村)とは

2005年3月1日、那賀郡内の3町2村(鷲敷町、相生町、上那賀町、木頭村、木沢村)による合併で現在は那賀町の一部となった旧木頭村。人口約1,000人の村は、剣山(つるぎさん)など標高1,000メートル以上の山々に囲まれた山間地域に位置し、村の中心を那賀川が流れる自然豊かな地区です。

「木頭ゆず」の名産地(地理的表示(GI)登録産品)

昼夜の寒暖差が大きく厳しい環境下で育った「木頭ゆず」は、玉揃いが良く大玉で、香りと酸味がしっかりあり、見た目も美しいのが特徴です。木頭果樹研究会による長年の研究の末、短期間で実を实らせることに成功しました。その後、日本全国に柚子栽培が広がったことから、木頭地区は「柚子栽培始まりの地」とも言われています。

「KITO DESIGN HOLDINGS株式会社」の取り組みについて

木頭地区出身である藤田恭嗣代表取締役が、自分自身が生まれ育った故郷に貢献したいという強い思いから、木頭地区全体で幅広い事業を展開しています。

黄金の村



基幹産業である「木頭ゆず」の生産及び加工販売

未来コンビニ

MIRAI CONVENIENCE STORE

日常の買い物に加え、未来の主役である子供たちが様々な刺激を受けられるコンビニ



NISHIYU de repos
ニシユドルボ

1階はカフェ2階はキックボクシングジム
地元の方々の交流の場となっている



NEXT CHAPTER
GUESTHOUSE・木頭

閉鎖した旅館をリノベーションしたゲストハウス



山奥に誕生した地域住民の架け橋

— “未来コンビニ”の由来は？

「未来コンビニ」は、代表取締役の藤田が、漫画家・手塚治虫先生が残した言葉から着想を得て作った「子供は未来から来た未来人」というフレーズをもとに名づけられました。「未来コンビニ」は、商店がほとんどない木頭地区において、買い物ができる場所としてはもちろん、未来の主役である子供たちが、たくさんの文化や価値観に触れ、未来への刺激を受けられる場所として、地域の人々に愛されています。

また、木頭地区という山間の地域だからこそ「世界一美しいコンビニ」をコンセプトに建築されています。道路側を全面ガラス張りにすることで、自然との共生を感じられる作りとなっており、Y字形の柱は、「柚子畑」をイメージして黄色で塗られています。

— なぜ、“世界一美しい”コンビニなのですか？

普通のコンビニを建てても、この限界集落の木頭地区では、利益を上げるのが難しく、ビジネスとして成り立たないんですね。そのため、県内外の人たちが「未来コンビニ」を訪れたいくなる“しかけ”として、「世界一美しいコンビニ」をコンセプトにコンビニを建てることを決めました。観光地とまでは言わないですが、通り道だった場所を、せっかく徳島から高知に抜けるなら「未来コンビニ」がある木頭地区に寄ってみようと思ってもらえる場所にしたいという狙いがあります。

県内外から訪れた人を地元の人や地域と繋ぎ、子供たちの未来を紡いでいける場所として「未来コンビニ」があります。「未来コンビニ」のデザイン性やコンセプト等が評価され、国際的に権威あるアワードを11冠受賞することができました。それが話題となって県内外から多くの方が訪れています。

「参考」世界三大デザイン賞の一つである「RED DOT DESIGN AWARD 2021」のリテールデザイン部門において、「ベスト・オブ・ザ・ベスト（最優秀賞）」を受賞。ほかにも、日本最大級の空間デザインアワードである「日本空間デザイン賞2021」において「KUKAN OF THE YEAR」等を受賞。



未来コンビニ

MIRAI CONVENIENCE STORE

営業時間11:00~17:30 水曜定休日

— “子供”が主役なんです

木頭地区には、商店がほとんどないため、住んでいる子供たちは、親御さんに車で連れて行ってもらわなければ買い物できません。他の地域では当たり前に行えることができない環境を少しでも改善するために、「未来コンビニ」があります。また、普通のコンビニには無いフリースペースを設けることで、子供たちが絵本等に触れたり、地元や高知県の学生さんがふるさと学習を行える場所になっています。

商品棚は低く、通路もゆとりをもった広さ ▶
子供や高齢者にも商品を見やすく取りやすいよう工夫されている！



— 大変だと感じていることを教えてください

一番大変だったのは、土地を探すことでした。木頭地区には、空き地となっている土地はありますが、所有者が近くに居ない、所有者が分からないなど、土地は空いているのに買えない・使えないというのが多くありました。

また、「未来コンビニ」は他のコンビニとは異なり、地域の方の買い物の利便性を上げるという「小売店としての役割」と、お土産や地元の情報発信をするという「道の駅のような役割」の二面性を持っています。ただ、コンビニという限られたスペースのなかでそれらのバランスを取るのが難しいところです。

そのうえ、過疎地で山あいの地区ということもあり発注できる商品が限定されているので、食品ロスの観点から、発注のタイミングや商品のラインナップを考えなければならないのが大変ですね。



木頭ゆずリースのソフトクリーム

全ての人が笑顔になれる、奇跡の村へ

「KITO DESIGN HOLDINGS株式会社」は、「全ての人が笑顔になれる、奇跡の村を創る」をミッションに事業に取り組んでいます。木頭地区は、過疎化が進んでいる地区の一つですが、そこで新しい事業をしたり、住まい環境を充実したりすることで、地域を活性化していきたいと考えています。

木頭地区は林業や農業の仕事がほとんどで、他の地域に出ていた子供たちが木頭地区に戻ってきても仕事の選択肢が少ない状況でした。しかし、「KITO DESIGN HOLDINGS株式会社」の事業を通じて、仕事の選択肢を増やし、安心して地元に戻ってきてもらいたいという思いで取り組んでいます。

— 地方創生において重要なことは？

「KITO DESIGN HOLDINGS株式会社」では、冒頭でも説明したとおり、「未来コンビニ」単体ではなく、複数の事業を展開することで、複合的に木頭地区を盛り上げ、たくさんの人が集まる場所にしたいと思っています。今は、それを実現するための投資段階だと考えています。

地方創生事業を行うには、事業に継続して投資できる財力と、それ以上に、利益は出ていなくとも事業を続けていくという信念、いわゆる“愛”が何よりも大事だと思います。

また、サポートしてくれる行政や地域と良好な関係を築くことも、地方創生には欠かせません。



— 行政に望むことはありますか？

空いているのに利活用できない土地の整理をお願いしたいです。事業者として積極的に事業を展開したり、移住を希望してくれる方たちへの住居整備を進めたかったりしても、土地の整理に膨大な時間を費やしてしまうことがあります。この課題がクリアできれば、今以上に様々なアクションのスピードアップにつながり、地域の活性化にもつながると考えています。

また、木頭地区にかかわらずどの地域でも後継者問題が付きまとうと思うんですが、**各地域の実情に応じた事業承継の仕組み**があれば良いと思います。



今後の展望について

今後、**木頭地区の事例が地方創生のモデルケースの一つになる**といいなと思っています。特に、木頭の未来についての長期的な構想に基づいて根幹事業として育成している木頭ゆずの事業は、木頭の創生の全ての軸になっています。未来コンビニやその他の事業は、この木頭ゆず事業をいかに多くの人に届けられるか、体験していただけるかの仕組みのようなものになります。地域によって、その地域の個性やアイデンティティ、軸となるストーリーが何になるかは異なりますが、この仕組み自体は、他の地域にも参考にしていただけるものではないかと思っています。

こういった仕組みを加速化していくためには、**地域と密接して様々な情報をお持ちの役場など行政側の方からのサポートが必須**となります。官民間問わずこれからも一緒に地方創生事業を進めていきたいと思っています。そのためにも、こちらから事業の現状や未来の構想を行政側にしっかり説明して、連携して進めていかないと、地方創生の実現にはたどり着けないんだと思います。

今後も信念と愛をもって、地元の若い人たちと一緒に木頭地区を盛り上げていきます！



取材を終えて…

現在、那賀町木頭地区で様々な地方創生事業を展開している「KITO DESIGN HOLDINGS株式会社」の地域に対する想いを直接お聞きすることができた貴重な機会でした。木頭地区には、「未来コンビニ」以外にも素敵な施設があるとのことなので、そちらにもぜひ行ってみたいです。
(徳島大学 秋山 佳花)

「四国のチベット」と呼ばれる木頭地区から、こんなにもワクワクする未来が出てくるといふことに感動を覚えました。ぜひとも、那賀町木頭地区から誕生した未来をもっと体験してみたいなと思いました。
(徳島大学 煙上 裕貴)

自然豊かな木頭地区にある「未来コンビニ」は、木頭の名産である柚子をイメージしたデザインが特徴ですが、集客だけでなく、子供たちの未来を紡ぐ場所にもなってほしいという願いのもと作られており、コンビニが、人々をつなぐ大切な場所になっていることに感銘を受けました。
(徳島財務事務所管財課 大門 葵)